

各部署の「教員選考基準」に従った 公平・公正な運営を求める！！！！

教員が安心して教育、研究、医療に従事できる環境を！！！！

大学戦略会議の過度な介入

教員人事は、手続きや評価基準の点検を行なう教員人事委員会と個々の人事案件を点検し可否を決定する大学戦略会議という会議体、そして部局で実際に選考を行なう選考委員会によって進められます。この制度に「三権分立」というアナロジーを用いることもできるでしょう。3つの会議体がそれぞれの任務を遂行すれば問題なくスムーズに人事も進みますし、一つの会議体に権力が集中し濫用されることもありません。しかし、熊本大学では大学戦略会議の過度な介入により教員選考規則や制度が歪められた状態に陥っているのです。

熊本大学「教員人事委員会教育職員の選考基準評価方針」の申し合わせでは、公募が適当でない場合は内部昇任も認めています。そして、公募制を採用しない場合の理由は、「教員人事委員会の評価を受ける」（熊本大学「教育職員選考規則第6条」）ことになっています。また各部署にはそれぞれの異なる事情に合った「教員選考基準」があり、言うまでもなくそれは前学長が正式に認めたものです。各部署や教員人事委員会はそれぞれの規則や基準に基づいて任務を遂行しています。それにもかかわらず、大学戦略会議は、各部署の内部昇任といった判断や、教員人事委員会の「評価」といった慎重な検討結果を無視し、教員人事委員会の申し合わせや各部署の「教員選考基準」を無いものと考えているように、内部昇任を認めず公募を強要したり、部署の「教員選考基準」にはない項目を要求したり、といった行為が昨年度から頻繁に起こっています。これは権力の濫用でしかありません。

忘れられた部署と大学本部間の「共通理解」

2021年度に、教員人事委員会から各部署に対し教授選考基準の内部昇任を求める条件の解釈について意見照会があったことは皆さんの記憶に新しいでしょう。組合は、集約された意見について教員人事委員会では審議が終了しているものの大学戦略会議で十分に審議されることなく放置されていることから、早急に審議を尽くすことを強く求める要求書（2022.5.19）を提出しました。8月29日に開催された学長懇談で組合がこのことを指摘すると、人事労務担当理事は次のように述べました。

2つの大きな人事にかかわる会議体（教員人事委員会と大学戦略会議）の間で、大学戦略会議では実際どうするかというところまでは行っていない状況だ。役員会では意見交換して、いろいろな意見があった。やはり公募原則は徹底すべきだという意見がかなり強い状況だ。教授昇任については、考え方を学部と大学本部がしっかり意見交換して、しっかり共通理解をつくっていくことは必要だ。どこかで明文化された訳ではないが、そのような議論はしている。具体的にどのような手続きでということろまでは、残念ながらそこまでは行っていない状況だ。議論してこれからどう対応していくかということろだ。私の理解だが、明確な方針までは至っていない。

あれから3カ月が過ぎようとしています。部局と大学本部の間で「共通理解」が構築されたという報告はありません。また、大学戦略会議ではそもそも「共通理解」を構築するつもりもないのです。前述したように、この人事労務担当理事の発言後も、部署の基準や判断を軽視し否定するような大学戦略会議の独裁的な介入が続いているのです。

そもそも、全ての部署の代表が教員人事委員会の構成メンバーではありません。人事労務担当理事は、教員人事について部署の考えを漏れのないように集約しているか再度確認し、「考え方を学部と大学本部がしっかり意見交換」できるように努めなくてはなりません。そのためにも、大学戦略会議にその必要性を強く訴え、問題の解決に取り組むのが人事労務担当理事の重要な責務です。


教員の動揺と不安、そして学長が言う「いい方向」とは？

8月29日に開催された学長懇談で、組合の教員人事問題に関する質問に対し、学長は以下のように述べました。

先週、大学戦略会議とかに出席している若手の経営委員の方との話し合いでは、どのような問題があるのかいろいろ話した。一番に出たのは人事昇任の問題だった。公募か内部昇任かということで、特に内部昇任を考えている方からは十分に考えてほしいとの要望があった。それは十分相談しながら、いい方向に向かって考えていこうと話し合いをしたところだ。結論は出なかった。やはり、特に若い准教授の方は非常に気になっているようだ。多分、皆さんにもだんだん拡がって伝わっていくと思うが、話し合いを行なっている。

学長も人事昇任について「いい方向に向かって考えていこうと・・・話し合いを行なっている」と述べています。学長の言う「いい方向」は誰にとっての方向なのか、またそれが何を意味するかはこの発言からは分かりません。しかし、人事労務担当理事の述べた「共通理解」の構築が忘れられたような現状で、大学戦略会議の歪んだ判断を聞いた教員の多くが、将来について不安を感じています。熊本大学の教育・研究・医療を支える多くの教員にとって「いい方向に向かっていない」ことだけは確かです。

使用者は、目先の評価だけを追い求めるのではなく、まずは熊本大学の将来を担う若手の教員が安心して研究・教育・医療に取り組める環境を整えるべきです。組合は、人事労務担当理事に対しては早急に部局と大学本部の「共通理解」を構築すること、そして学長および大学戦略会議の構成員に対しては各部署の「教員選考基準」に従った公平・公正な運営を行なうよう要求します。

	熊本大学教職員組合	
	No. 14 2022. 12. 15	内線:3529 FAX:346-1247 ku-kyoso@union.kumamoto-u.ac.jp http://union.kumamoto-u.ac.jp/